

第6回 仙台市総合計画審議会議事録

日 時	平成22年11月16日（火） 18：30～21：00
会 場	仙台市役所 2階 第一委員会室
出席委員	阿部一彦委員、阿部初子委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、大滝精一委員、大村虔一委員、岡本あき子委員、小野田泰明委員、菊池昭一委員、小松洋吉委員、佐竹久美子委員、菅井邦明委員、鈴木由美委員、高野秀策委員、西大立目祥子委員、西澤啓文委員、庭野賀津子委員、針生英一委員、樋口稔夫委員、間庭洋委員、宮原育子委員、柳生聡子委員〔22名〕
欠席委員	足立千佳子委員、石川建治委員、内田幸雄委員、鈴木勇治委員、永井幸夫委員、増田聡委員、水野紀子委員、柳井雅也委員〔8名〕
事務局	山内企画調整局長、大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹、柳津総合計画課主幹、堀田青葉区役所区民部長、吉岡宮城野区役所区民部参事、小野若林区役所副区長、谷口太白区役所副区長、青柳泉区役所区民部長
議 事	1 開会 2 議事 (1) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見について (2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の修正の方向について (3) その他 3 閉会
配付資料	1 仙台市基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見の状況 2 仙台市基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見の概要 3 市民意見等を踏まえた基本構想・基本計画（中間案）の修正方向（案） 4 基本構想・基本計画（中間案）の修正概要（案）

1 開会

大村虔一会長

定刻となりましたので、ただいまから第6回仙台市総合計画審議会を開催いたします。

最初に、本日の議事録署名委員の指名をしたいと思います。前回、内田委員にお願いいたしましたので、五十音順で次になる江成委員にお願いをしたいと思います。

江成敬次郎委員

はい。

大村虔一会長

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、続いて議事に入る前に、定足数の確認を行います。事務局から報告をお願い

いいいたします。

梅内総合計画課長

定足数等のご報告をさせていただきます。本日、23名のご出席を予定しております。現在22名の皆様にご出席をいただいておりますので、定足数を満たしていることをご報告いたします。本日は急遽^{きゅうきょ}ご欠席の方もありましたので、座席に若干空いているところがございます。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。お座席に、座席表、新総合計画の策定作業マップ、本日の次第、資料一覧、本日の資料1から4及びお預かりしております前回までの資料と議事録のファイルを置かせていただいております。

事前に郵送いたしました資料は暫定版でございますので、本日の資料一式入りの封筒をお持ち帰りいただきたいと思います。過不足等ございませんでしょうか。

なければ、事務局から以上でございます。

2 議事

(1) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見について

大村虔一会長

それでは議事に入ります。

本日の議事は三つでございます。

まず一点目として、「仙台市基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見について」です。中間案につきまして、前回の審議会からこれまで市民の皆さんにご意見をいただく取組を行ってきたところですが、その結果について事務局から報告を受けたいと思います。それではお願いします。

梅内総合計画課長

それでは、資料1に基づきましてご報告を申し上げます。

中間案策定以降これまでの間、パブリックコメント、各界各層・有識者調査、12回にわたります区民意見交換会、まち歩きフィールドCafe及びまちづくり市民フォーラムといったイベントを行いまして市民の皆様のご参画をいただきながら、中間案に対するご意見をいただいていたところでございます。

12日現在でまとめました参加者総数でございますが、区民意見交換会につきましては、ご参加いただいた方の人数をそのまま掲載してございますので総計でございますが、参加者の総数といたしまして753名、そして、いただきましたご意見、お一人で複数件のご意見ということもございましたので1,447件のご意見をいただいております。このうちご感想のようなものも散見されますので、それを除きますと1,104件でございますが、現在これにつきまして、中間案への意見反映ということで、意見の概要をまとめ、事務局側の対応案を作成するという作業をしております。

主なものについては後程ご紹介いたしますけれども、次の12月の審議会におきまして、その対応の一覧表につきましても、審議会にご提案させていただきたいと思っております。

す。

続きまして、資料2でございます。資料1でご紹介いたしました1,100を超える市民のご意見でございますので、本日これをご紹介することはできませんけれども、これまでいただきましたご意見のうち、構成や個別の箇所にかかるものにつきまして、まとめましたものが資料2でございます。

中間案全体について、基本構想と基本計画の流れ、関連性を分かるようにといったようなご意見をいただいております。

基本構想について、市民力の強調というところにつきましては、ご賛同の意見を多くいただきましたけれども、市民力ということが分かりにくいのではないかと、また、市民力を導く必要性といたしますか、課題認識のところからきちんと起こすべきではないかといったご意見をいただいております。都市像につきましても、たくさんご意見をいただきましたけれども、四つの都市像、仙台が長く引き継いできた都市像でございますので、こちらの基本的なところをご了解のご意見が多かったものと思っております。都市間競争の時代に選ばれる都市を目指すべき、また、東北の中心都市としての姿をはっきり出すべきといったようなご意見をいただいているところでございます。

基本計画、総論のところでは、総論の記載内容が中間案でございましたので薄いというようなことから、基本構想との関係が分かりにくいのではないかとといったようなご意見がございましたので、今回このところに注意して直そうということでございます。

重点的な取り組み、重点化につきましてはご賛同の意見を多くいただきましたけれども、学びのところでは学びをどのように創造につなげるか、どのように成果を発揮できるのかといったようなご意見、支え合いのところではやはり高齢化でございますので、不安に應えるべき、また、子育てをしっかりと支えるべきとのご意見、都市のデザインのところでは集約化に賛同のご意見がある一方で、地域の視点も大事にすべきといったご意見もいただいております。また、活力づくりのところでも、低成長の時代でしっかり活力づくりをすべきであるというご意見を多くいただいております。

経営方針のところでございます。地域のところでは町内会などの活動、あるいは地域での市民の活動を支えるような市側の活動を求めるご意見を多くいただいております。裏面でございますが、市民力、先程の基本構想にもございましたけれども、市民力は大事けれどもやはりプロデュースとかつなくこと、育成、支援などが重要だというご意見を多くいただいております。公共施設の経営改革、これについてはこの視点は非常に重要であるというご意見、民間施設も含めて地域資源をきちんと見直すべきというご意見をいただいております。市役所の自己変革につきましては、財政の問題につきまして多くご意見をいただいております。また、組織横断的に、県を始めとする関係団体との連携をとったようなご意見をいただいております。

分野別計画につきましては、都市像と各分野との関係をもっと明確にすべきといったところ、その他個別の項目についてたくさんご意見をいただいているところでございます。

区別計画は、今回充実を図りましたけれども、そのことについてはご賛同いただくご意見が多かったかと思えます。ただ、区域を越える課題でありますとか、仙台らしさ、

各区の特性、そういったところにご意見があったものでございます。

総合計画の推進につきましても、財政問題、あるいは目標管理・評価の仕組み、そういった点にご意見をいただいているところでございます。

以上でございます。

大村虔一会長

ありがとうございます。

市民からの意見についてのご説明がございましたが、今の事務局からの説明につきましてご質問がございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

佐竹久美子委員

はい。

大村虔一会長

どうぞ。

佐竹久美子委員

市民との参画について、いろいろな機会をお持ちいただいて市民の意見を聞いていただいたと思っておりました。

直接いただいたたくさんの意見をご覧になって、市民の関心度みたいなものはどのように聞き取っていらっしゃるのでしょうか。

大村虔一会長

事務局、いかがでしょうか。

山内企画調整局長

具体的に、区民意見交換会、私も参加させていただきましたけれども、前半と後半と分けておりまして、前半ちょっと日程的に夜間ということと市長も参加でできなかったというのもあって、なかなか参加率がよろしくなかったんですけど、後半は市長が全部出るということもあって非常に参加者も多くて、10年先を見据えてやはりこうあるべきだという部分でのご意見たくさんいただきましたので、非常に関心も高まったなと受け止めています。

大村虔一会長

ありがとうございます。よろしいですか。

佐竹久美子委員

はい。

大村虔一会長

他にいかがですか。時間もありますので、もしなければ次に移りたいと思いますが、よろしゅうございますか。

(はいの声あり)

(2) 仙台市基本構想・基本計画(中間案)の修正の方向について

大村虔一会長

それでは、二点目として「仙台市基本構想・基本計画(中間案)の修正の方向について」を議論したいと思います。

今報告がございました市民の皆さんのご意見を踏まえて、中間案の修正の方向案とその方向に沿った中間案の修正案が事務局から出されていますので、まず事務局からその説明を受けたいと思います。

それでは事務局、お願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは、資料3をご覧ください。

先程申し上げましたように、資料2のようにたくさんのご意見をいただいたところでございます。このうち、どの意見を採ってというところが大変悩ましいところでもございましたけれども、内部で協議をいたしまして、こういった方向ではどうかという概要をまとめたものでございます。

基本構想につきましては、全体的な流れについてはご賛同を多くいただいたと思ってございます。基本計画とのつながり、関係性を明確にというようなこともございましたので、箱囲みのようにいたしました。

1の「仙台の未来へ」では、時代認識、市民力や都市像との関連につきまして、加筆するとともに、流れについて修正を加えてみました。また、2の「仙台の未来を創る市民力」の部分でございます。これまで積み上げてきた市民力についてのボリュームが多かったところなんですけれども、ご意見の中では今後の方向性についてやはり書き込みが必要ではないかというご意見がありましたので、こちらについて加筆をいたしました。現状認識の部分は若干その関係で削除した部分がございます。「仙台の都市像」につきましては、都市個性を発展させた姿である『誰もが心豊かに暮らし続けることができる都市、「ひとが輝く杜の都」』というふうに位置づけまして、その全体理念の下に個性に応じた四つの都市像ということで整理をいたしました。都市像のところに副題を加筆いたしまして、多様なご提言をいただいた趣旨を生かすことを考えております。また、都市像が達成された状態の部分につきまして、現在加筆をしているところでございます。「仙台の未来に責任を持つ都市経営」の部分でございます。市民協働、地域の重視、財政の問題、自己変革といった基本方向を示すところで構成を若干修正いたしました。「総合計画の推進」でございます。財政見通しについてご意見を多くいただきましたので、その部分について加筆をしているところでございます。

基本計画につきましては、全体構成を維持しつつ、基本構想と合わせまして「です・ます調」ということで統一を図るものに修正をしたいと思っております。「総論」の部分は、基本構想から基本計画への流れを分かりやすくするため、全体に加筆をいたしまして、策定目的、期間、時代認識、視点、位置づけ等、全体に加筆を図っております。裏面でございます。

「重点的な取り組み」につきまして、四つの重点政策及び四つの経営方針につきましては、基本的に維持をしております。

「重点政策」のところでございます。学びの部分につきましては、ミュージアム都市構想の部分の加筆に加えまして、学都の資源を生かすまちづくり、子供たちの学びといった内容を盛り込んで、内容の充実を図りました。

また、地域での支え合いにつきましては、やはり宮城県沖地震を始めとする災害対策、安全・安心といったようなところについて、加えるべきというご意見を多くいただきましたので、その部分を加筆いたしました。

持続可能な都市づくり、都市デザインの部分につきましては、最近非常に関心が高まっております環境面を強調し、低炭素都市づくりそういったものを加筆しているところでございます。

仙台の魅力と活力づくりでございますが、全体の体系を整理いたしまして戦略性といったようなご意見がございましたので、東西線等を、この10年間で重点的に取り組む内容をもう一度見直しまして、内容の充実を図っております。

「経営方針」でございます。基本構想のところで市民力を第2章で書き起こしておりますので、中間案から構成を変えまして市民力を1番目に、2番目に地域、3番目に自己変革、その中での公共施設経営改革を4番目という形で構成を変えております。項目については維持しております。市民力の拡大ということで、新たな公共を推進といったような体系を設け、市民フォーラム等で寄せられたようなご意見も内容に加えて充実を図ったところでございます。地域政策でございますが、具体的な市役所の取組といったご意見が多くございましたので、区役所の機能強化、組織横断的対応といった内容の充実を図っているところでございます。自己変革につきましては、行革の視点、公共施設の経営改革におきましても庁内における検討が進んでおりますので、そういったものを加筆いたしております。

「分野別計画」、今日の段階ではまだ骨子でございますけれども、ただいま庁内で重点政策に合わせまして、全体的な見直し、整合を図るべく加筆を行っているところでございます。

「区別計画」におきましても、各区民意見交換会などで出ました意見を基に、各区と現在調整を図っております。

今のような修正方針を基に、ちょっと厚くなっておりますけれども、修正概要案ということで資料4を作成いたしました。

基本構想の部分でございます。全体の基本構想、基本計画のつながり、関係について整理すべく、資料4の1ページにございますように「仙台の未来へ」の中で、時代認識、市民力と都市像の関連について加筆をいたしております。この項目全体で地球規模の課

題の増大、人口構造の変化等を背景としまして、社会経済構造全体が急速な変革の過程にあり、「質」を重視した心豊かな生活を志向する成熟社会への転換、新しい都市づくりの必要性が増していること、様々な制約が高まる中で仙台が選ばれる魅力的な都市としてあり続けたいこと、その実現に向け市民の持つ可能性、市民の力と仙台の都市個性を生かすべきであること、そういった形で都市経営を確立し、歩みを進めていくといったような構成で記述してございます。

2の「仙台の未来を創る市民力」でございます。市民力の部分、市民力はいいいけれどもなかなか分からないといったようなご意見がございます。定義をどうするかという問題は、審議会の中でもあるところでございますけれども、今回市民力の重要性といたしまして、市民一人一人が学び交流しながら、価値を生み、支え合って、自らの心の豊かさにつなげることが、豊かで成熟した都市の実現のため重要である。様々な主体が都市や地域の課題解決、魅力創出に自発的に取り組む「市民力」を発揮していくということが市民自治の原点でもあるといったような趣旨で、定義ということではないかもしれませんが、こういった形の表現に変更をしているところでございます。

「仙台の都市像」につきましては、先程ご説明いたしましたとおり、副題を追加いたしまして、加筆をしているところでございます。

4の「仙台の未来に責任を持つ都市経営」につきましては、財政的観点等のご指摘がございましたので、その部分若干ですけれども加筆いたしまして、構成を修正いたしております。

また、5の「総合計画の推進」につきましても同様に、財政制約、実効性の確保についてご意見をいただいた部分で若干加筆し、修正をしているところでございます。

基本計画でございます。4ページからでございます。第1章「総論」につきまして、基本構想からの関係性を明確にするために厚みを出すべく加筆をしております。計画期間10年間、冒頭で人口推計を記述いたしまして、仙台を取り巻く時代環境と課題認識、そしてこれを踏まえて重視すべき七つの視点を記述してございます。今後10年間で本格的な成熟社会への大きな転換期にあたり、新しい都市づくりの必要性が増しているといった認識の下、計画期間を「新たな都市のシステム確立に向けた変革の期間」という位置づけにいたしまして、都市の仕組みづくりを早急に構築していくといった記載に修正を加えております。

7ページから「重点的な取り組み」でございます。先程申し上げましたように、四つの重点政策、四つの経営方針といった構成については変更はしてございません。四つの重点政策につきまして、都市像の実現を^{けん}牽引するものということで、柱の名称をそれぞれ都市像との関連で、政策内容に沿った表現に修正を加えております。都市像のうち、学びの都を実現するということで、「学びを多彩な活力につなげる都市づくり」と位置づけました。学都の資源、子供の学びを重視すべきというようなご意見、ミュージアム都市の推進に加え、子供たちの学びといったようなことを盛り込んでいるところでございます。

続きまして9ページから、都市像の共生の都の実現を^{けん}牽引いたします「地域で支え合う心豊かな社会づくり」でございます。高齢者でも元気に暮らせる健康づくり、あるい

は子育て応援社会づくりについては、基本的に賛同のご意見を多くいただいておりますので、個別の内容につきまして加筆充実を図りますとともに、宮城県沖地震を始めとします災害、安全・安心対策が必要ということで「(3) 安全で安心な生活への総合的な取り組み」といった項目を追加したところでございます。

資料4、11ページでございます。都市像の「潤いの都」に対応いたします「環境と調和した持続可能な都市づくり」でございます。環境の重視といったようなご指摘が多くございましたので、「(1) 低炭素都市づくりの推進」といったような項目を加えまして、環境面の施策の重要性を強調したところでございます。加えまして、全体的に修正を図り、機能集約と並びまして地域再生、こういった地域の視点も重視すべきではないかといったご意見にも応えられるように、加筆、修正をしているところでございます。

13ページでございます。重点政策の最後、都市像の「活力の都」に対応してございます。こちらにつきましては、中間案の段階で分野別計画との重複感があった、また、戦略性が弱いのではないかとといったようなご意見がございましたので、全体の構成を大きく変えてございます。「東北の交流人口の拡大への戦略的な取り組み」といったことを強調するとともに、「未来への活力を創る産業の育成・誘致」、東西線の新たな都市軸形成に伴う産業の連携あるいは誘致・育成、こういったものを強調して充実を図ったところでございます。

15ページ以下、「4つの経営方針」でございます。こちらにつきましては、政策と比べまして体言止めなどがまだ残っておりまして、若干内部でも未整備な部分があるところをおわび申し上げます。現在修正しているところでございます。市民力につきましては、市民力が発揮されるような環境整備、また、市民力を支える環境整備、市民力の充実・拡大を図るべき、新たな公共の推進といったご意見、あるいは先程申しました市民フォーラムなどで寄せられたようなご意見を踏まえまして、内容の充実を図ったところでございます。

16ページ、地域づくりでございます。こちらにつきましては、地域、町内会と地域団体からのご意見を多くいただいております。地域を支える市役所、区役所の体制、また、市民協働のどのように地域に参画していくか、そういった対応を支援する体制が必要ではないかということで、市役所の体制の見直しを含めまして内容を修正し加筆したものでございます。

17ページの「自己変革」。こちらにつきましては、財政運営の重視といったご意見が前回でもございましたので、こちらについて加筆をしております。

また、資料4の18ページ、「公共施設の経営改革」でございます。こちらにつきましても行革プランの主要なテーマでもあり、新たな試みといえますが、また、新たな視点で取り組むべきものとして庁内での検討を進めておりますので、その検討状況に従いまして加筆をしたものでございます。

「分野別計画」につきましては、19ページでございますが、都市像との関連が分かりにくいといったご意見が多くございましたので、現在体系を整理して内部で調整をしているところでございます。今まで二つの柱を「市民の暮らし分野」と「都市の魅力分野」ということで分けておりましたが、こちらを都市像と関連づけまして学びの都、共生の

都の実現を目指す分野を第1分野、潤いの都、活力の都の実現を目指す分野を第2分野というふうにタイトルを変えまして、その内容に合わせ、その下の項目の分類の体系を整理し、現在内部の書き込みをしているところでございます。

20ページ、「区別計画」でございます。こちらにつきましては、今回の基本計画におきまして、充実を図ったことについてご賛同の意見を多くいただいておりますが、区の将来ビジョン等行われてみましたときに、この違いについてこういったご説明をするか、あるいはその細かい内容につきましてやはり自らの地域特性というか、自分たちの区の特性ということについて多くご意見をいただきましたので、現在区役所と共に将来ビジョンを含めましてあり方を調整しているところでございます。次回の審議会には、将来ビジョンの修正について案を提案したいと思っているところでございます。

最後に「総合計画の推進」でございます。適切な目標管理、評価の仕組みにより実効性を確保すべき、といったご意見を含めまして加筆をいたしました。現在、この案としましては、具体的には基本計画におきまして定性的な政策目標を定めることとしまして、これを受けます実施計画において、政策目標ごとに設定する成果指標と、毎年度実施いたします市民意識調査等の結果を踏まえまして、市民協働の手法を取り入れて、評価・点検を行う仕組みをつくる、そして、その結果を分かりやすく公表しながら議会にご報告し、ご意見をいただくといった対応を考えてございまして、現在その内容について庁内で調整しているところでございます。

今回の修正骨子について以上でございます。

大村虔一会長

大きな変更がいろいろある中を、簡単に説明いただきましたので、これから皆さんで少し時間を掛けてご意見をいただきたいと思います。

まずは、資料3の修正の方向につきましてのご意見をいただきたいと思います。

あるいはまた、資料3につきましてのご質問等ございましたら、そちらでも結構でございます。

どなたからでも結構でございますが、いかがでしょうか。

どうぞ。

岡本あき子委員

私から、資料3。資料4にも入ってしまうかもしれないんですけども。

今回、区民意見交換会など本当にお疲れ様でした。たくさんの意見をいただいて、後、前回までに発言させていただいた中身なども加えていただいてありがとうございます。

私の周りにも見ていただいてそこからいただいたご意見の中で、やはり基本計画、10年の方向性の中で、基本構想自体はもっと先の方向性なので致し方ない部分もあるんですけども、なかなか具体的にこれをやる、あれをやるというのが見えないというご意見、具体性に欠けるというご意見もあったと思うんですけども、もっと個別の施策については実施計画というものがあるということを、もう少し伝わりやすく書いてもいいのかなと思いました。数値目標も定めて、きちんと一つ一つの具体的な部分については、

この基本計画を踏まえてしっかりと実施計画に盛り込んでいきますということを、もうちょっと強調してもいいのかなと思っていたのが一つ。

もう一つは、やはり10年後を見据えて、根本的な話なんですが、人口がほぼ変わらずそこから先は緩やかに下っていくだろうという中で、もうちょっと危機感をあおってもいいのではないかというご意見を結構伺いました。行財政改革だけでなく、例えば今都市計画道路も半分ぐらいはもうつくれませんよということも一部では伝わっているけど、こういう計画を見たときには、何となく地域に細やかに対応していきますよと書かれている以上、自分たちの地域の必要なものは、必要だと伝えれば応えてくれるんだというかすかな希望を逆に抱いてしまうので、厳しい部分はやはり切り捨てる部分も今後10年は特に、後、行財政改革の中で受益者負担とかも含めて、交流人口で他の収入を増やす一方で負担をいただく部分もあるんだよということを、特にここの10年なのでどこかできちんとうたった方が、現実的な計画になるのではないかというご意見は結構いただいて、全く私もそういう視点で今までなかなか具体的にお話してこなかったなと反省をしていたものですから、そのことをお伝えさせていただきます。

大村虔一会長

ありがとうございます。

事務局から何かございますか。

山内企画調整局長

基本計画と実施計画の仕分の部分については、実施計画をもう少し詰めてからという部分で、その辺の様子をもう少しお待ちいただければというのが一点。

また、危機感をあおってという部分は、やはり両方の意見がございます。やはり財政的な厳しさを市民の皆さんも十分ご認識いただいているところでございまして。ただ、課題として、余りマイナス面を強調し過ぎて希望を抱かせたい部分に対する拒否反応というか、そういうことを逆に余りしない方が良いという意見の方が結構多かったかなという感じがありまして、その課題としてはここに書いてあるような程度の記述にしていると。ただ一方では、今ご意見のございました負担をいただくとか、その辺の都市経営面での個別具体のテーマについては、ちょっと今日の段階では市役所の自己変革、体言止めで中身が見えない部分もあるんですけれども、その辺の中できっちりと記述していきたいと思っております。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。

岡本あき子委員

よろしくお願いします。

大村虔一会長

他にいかがでしょうか。
どうぞ。

菊池昭一委員

今の資料4の中で、今回財政基盤の確立とかなり具体的な中身も含んで入れてありますけれども、実施計画を推進するには基本的にはやりたいことはいっぱいあるでしょうし、財政的な制約も当然今の段階では、いつの段階で実施体制というのが整ったりしてくるのか、見通しがつかないような状況があるので、そういう意味では踏み込んで書いてあるんですけれども、当局のほうで、例えばここまで踏み込んで書いて、次に実施計画の中でもっとこう踏み込んでいきますよね。そのときに、この段階でここまで書くとかなり制約が出てくるのかなという気が逆にしたんですけど、その辺は実施計画の中でこれを反映するようにしていると、踏まえてやっていくという捉え方でいいんですよね。だから書いたと思うんですけれども、これから質問する立場でもあるので、一応確認しておきたいと思ひまして。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。確認ということで特にお答えはいただかないということにしてよろしゅうございますか。

他にございますか。

資料3だけに絞っていると、どうもなかなか発言が難しそうですから、資料3、資料4を含めてご発言をいただきたいと思ひます。

どうぞ。

なかなか出てこないの、私が少し時間稼ぎをさせていただきますが、この市民力を育てるための施策が、基本構想からもっと後の重点施策みたいなのに何度が出てくるのでございますが、人口が減る基調の中で、市民力を持った人間を子供のころから育てていくという視点がとても重要だろうと思っております。僕は文化をつくっていくというのは、市民がいろいろな行動を起こすことによってつくられていくと思うんですが、それは小さいころの遊びとか、主体的な行動だと思います。そういうときに友達と協調したり、仲間をつくったりする体験がとても重要なのではないかなと思うんです。それで学びという言葉は何度か出てくるんですが、そうしたその子供の主体的な行動を育てることによって活発な、そして独善的でない、人と協調できる人が育っていくんだ、ということは何らかの形で入れていただくといいなと思ひます。

いろいろ気がついたことありますが、皆さんの合間にちょっとずつ言おうと思ひます。かすかにそういうふうにも読んでもいいなと思うところもちょっとあるんですね。もうちょっと強く言ってもらった方がいいかなと思ひます。

梅内総合計画課長

今の会長からご指摘ありましたような点、基本構想の中の市民力でどのように書くかという点もございまして、また、重点の学び及び支え合いの方でも子育てというのを入

れております。こちらの方に、今のような少しその政策を進める上の哲学のようなものを入れるべきかなとも思っています。

また、少子化ということで、子育ての親御さんを含めたつながりが、なかなか昔のように持てないというようなことがありまして、のびすく等の取組にも非常にニーズが多いということでございますので、そういったところに今後取り組んでいくような、基本となる考え方も入れたいと思っております。

今後検討してまいりたいと思います。

大村虔一会長

是非よろしくお願いしたいと思います。

他にございませんか。

どうぞ。

西大立目祥子委員

今のことに関連するんですけれども、最初にその市民力を中心に置いた理念というのが示されるようになったことが、とても分かりやすくなってよかったと思うんですけれども、その「重点的な取り組み」の一番上に、やっぱり学びやミュージアム都市構想がきているんですが、市民力を掲げる中にあっての学びであれば、やはり私はその単に暮らしの中に楽しみや充実を生み出すものであるというものを超えて、もうちょっと地域づくりや地域課題解決や、そういうその都市づくりの活力に役立つというような視点が、もうちょっと入ってきてもいいのではないかなと思いました。

それと、中身についてではないんですけれども、今回のその中間案を受けての訂正で、かなり印象が変わったものになったんですけれども、これは市民にはどんなふうに公開されて、この後、市民からの意見というものはもう取らないで進められることになるんでしょうか。私としては随分違ってきたなという印象があるので、もう一度市民に問いかけるということが必要なのではないのかなと思うんですが、その辺はいかがなんでしょうか。

大村虔一会長

全体の時間もあって、なかなかそれはかなり苦しいことだと思いますが、事務局のお考えを一つ。

山内企画調整局長

これまで中間案を基本的にパンフレットの形で市民の皆様にご覧いただいたと思うんですけれども、その全体的な流れについてはおおむねご了解という感じが非常に強くて、ただ、その中身としていろいろなご意見をいただいて、それに審議会でのご意見、さらには議会でのご意見も踏まえて、こういった方向ということでまとめさせていただいて、これにつきましては審議会で今日ともう一度ご議論をいただいて、それについて議会の方にもまたお示しをして、またご議論をいただくということで対応していきたいと考え

てございまして、今年度で今の基本計画が切れるという流れの中で、議会にもご提案というようなスケジュールもございまして、その辺のスケジュールにつきましてはこの審議会が立ち上がる段階からお話している流れでの作業手順でございますので、それについてはご了解いただければと思っております。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。他にいかがでございましょうか。

江成敬次郎委員

それでは。

大村虔一会長

どうぞ。

江成敬次郎委員

先程ちょっと説明のあった資料４の２ページの仙台の都市像で、四つの都市像があって、それに副題を付けたというご説明だったんですが、この副題というのがどういう意図なのかというのがちょっと分からない。私が通常考えますと、上に大きな概念があってそれを具体化したものということで、副題が付けられるのかなと思っているんですが、ちょっとこの副題の意図が、主題とのつながりというのが今一つつかめないのも、もしできましたらもう少しこのところをご説明いただければと思うんですけども。

大村虔一会長

事務局いかがでしょうか。

梅内総合計画課長

都市像につきまして、基本的な方向性についてご賛同を多くいただいたところでございますけれども、仙台らしさを強く出す等、個別の部分といたしますか、そういったところに多くのご意見をいただいております。都市像にこの度副題を追加しまして、市民と共に継承してきた都市像を発展させるために、今委員からご指摘がありましたように、今までの都市像の内容を膨らませたいと思って工夫してみたというところでございます。

具体的に申し上げますけれども、学びの都のところ、先程西大立目委員からもお話があったんですが、学びが市民力を広げることにつながる、今回の主題である市民力につながるというような意味を強調すべきだというご意見もありまして、それを学びの意味といたしますか、市民力を広げて未来に向かうんだという意図を出したいと思ひまして、学都の部分ではこういった副題を付けております。

また、支え合う都市のところでは、重点のところでも、安心・安全、あるいは災害対策についてのご意見を多くいただきましたことから、こういったことも当然支え合う共生の都の中に含んでいるということを表したいと思ひまして、表現がなかなか不十分か

もしれませんが、安心あるいは安らぎといったことを加えたものでございます。

潤いの都のところでは、昨今の環境問題に関する世界的な課題であります低炭素、そういったものについて取上げが足りないのではないかとといったご意見がございましたので、低炭素について副題でふれ、あるいは集約型都市、あるいは地域の目線といったようなこともやはり日々の暮らしやすさ、高齢化社会に対応した環境にやさしい、暮らしやすいまちづくり、こういったことが重要だというご意見を受けて、ここの副題を付けたものでございます。

最後のところでございますが、四つ目につきましては東北の自立的な発展、この部分について多く意見があり、あるいは東北だけではなくて世界と東北の窓口である仙台の機能といったご意見がございましたので、この副題のところでこれを加筆してみたというところでございます。

そういった意味では、今まであったものを詳しくしたという点では、少し不十分かもしれませんが、いただいた市民のご意見につきまして、この都市像にそういった要素があるんだということを明示しようと思ひまして、今回、副題を付けたというところでございます。

表現についてはご意見をいただきながら、また見直していきたいと思ひているところでございます。

大村虔一会長

いかがですか。

江成敬次郎委員

何となく理解はさっきよりは深まったんですが、どうもいろいろな市民からの意見が出てきたのを、できるだけコンパクトにまとめたいという、そういう意図なんだろうと理解はしたんですが、話を聞いてようやく分かるということだと、副題を読んでそのテーマとサブテーマを読んでぱっと分かるということにはなかなかちょっといかないのでは、内容がちょっと広すぎるのではないかという感じがするんですね。

ですから、余り無理して副題のような形でコンパクトにしなくても、一定程度の説明をするという形の方が分かりやすいのではないかなという、そんな印象を持ちました。

大村虔一会長

ありがとうございます。

山内企画調整局長

ちょっと補足させていただきますと、四つの都市像自体がこれまでの都市個性を継承してということで、学都、健康都市、杜の都、中枢都市という要素を継承してまとめたんですけれども、そのまとめ方が、そういった独自性が逆に学都を学びの都ということにした結果として、こう平板になってみえるというようなご意見もございまして、やはりこれまでの市民との継承してきた都市個性につながるような記述も必要ではない

かというご意見がありました。

今の都市像自体は、ほとんど賛同意見の方が圧倒的に多くて、直す必要がないという意見が多い一方で、やはり都市個性につながるような記述もあればというご要望と、両者に応える形にすると、都市像はそのまま副題としてそういうつながる表示を工夫してみたというところでございます。加えて、この下の施策分野での達成状態が分かる記述を今ちょっと最終的に調整しておりまして、それも含めてご覧をいただいて、いろいろご議論をいただければとも感じております。

大村虔一会長

新しい試みが付け加わったので、まだちょっとなじまないところがあるという部分があるかと思いますが、ご了解をいただきたいと思います。

他にいかがでございましょうか。

どうぞ。

樋口稔夫委員

17ページですけれども、総合計画の推進と両立する持続可能な財政基盤の確立というところで、(1)の ですけども、ここで「戦略的な企業誘致や未利用地の有効活用の推進」となっていますが、ここの表現がすごく消極的な何か感じにみえるんです。もう少し産学官という連携をしながらいろいろな産業を興すとか、いろいろなことを今やっているわけですけども、ハイテクとかそういうものについては相当強い仙台ですので、もう少し「未利用地の」とは言わずに、やはり必要なものはどんどん、今は就職難でもございますし、職場改革という意味からもこの部分の表現をもう少しアピールできるものにした方が。何か消極的にみえるんですね。当たり前のことを言っているだけでという感じがしませんでしょうか。もう少し何かインパクトのある表現を使った方がどうかと思うんですが。

大村虔一会長

いかがですか。

山内企画調整局長

この部分は、都市経営の要素としてまず が基本の部分でございますけれども、その財政の健全さを確立するという中身としては、まず大きな基本は実質的な収支均衡型の予算を組む、これが基本の部分でございます。そのためには借金を減らしていくというのと、大都市にふさわしい税財政制度の確立という部分が大きなテーマとしてあると。

それに向けて、一つは行革を徹底して歳出削減・歳入向上を進めると。それに加えて、都市経営全般について、税源のかん養といった視点をちゃんとあらゆる分野にそういう視点をもって取り組むべきだという部分の、ここではあくまで例示的な形にとどめておりまして、今のご指摘につきましては各分野においてはそういったものは経済活性化とかそういう部分で拾ってございます。

ここで、どこまで例示的に書くかという点かと存じますので、その辺は今後さらに検討を深めたいと思います。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。

樋口稔夫委員

分かりました。

大村虔一会長

他いかがでございましょうか。どうぞ。

針生英一委員

全体的にやはり学びというカラーが強く出ておりますので、企業人が読むと、企業はとりあえず商売だけやっていればいいのねというふうに読めると思うんですね。

先程大村先生から子供、若者という話がありましたけれど、もちろんそれも非常に未来の都市づくりというくくりで、人づくりは大事なんですけど、もうちょっと中年層というか我々の世代の人間もまちづくりに入っていけるような、そういう形をどうつくるのかというのがやはり大事だと思うので、それにはやっぱり企業が変わっていかないといけない。企業ももうちょっと地域密着あるいは社会貢献というのを含めて、地域とのつながりを深めていくという関係性を、行政もある意味では財政危機で非常にいろいろな課題を抱えていますので、そこはやはり企業のいろいろなリソースを地域の中に入れていくことによって活性化していく流れをつくっていくというか。

中年層、中年層というか我々ぐらいの世代は、やっぱりある意味では社会を動かすということを担っている層の人たちで、そういう人たちはある意味では実権を持っていて影響力が大きいと。こういう人たちももうちょっとまちづくりに巻き込んでいくと。そういう人たちが若い人たちに対してもアドバイスをしたりとか、あるいは自分たちがリタイアしたときにまちづくりにずっと入っていけるような、そういう環境をつくっていかないといけないのかなと思っています。

以外と企業とか企業人が持っているリソースというのは、やっぱり地域にとっては非常に影響力が大きいものもありますので、そういう社会貢献型企業をもっと戦略的に増やしていくというか、そういう部分の企業に対するインセンティブを含めて、行政は考えていった方がいいのかなと。ある意味ではCSR調達みたいな形で、この調達をそのところとうまくつなげていくとかいうことも含めて、全体的にバランスをとっていくということが、もうちょっとこの中に組み込まれているといいのかなと感じました。

大村虔一会長

ありがとうございます。

いかがですか。重要な発言だと思います。どこにどうしていくのかはあるけれども。

一つは企業が新しい公共の一つの担い手になっていく話とか、そのために必要なファンドをどんなふうにつくるか。あるいはつくらないかとか。あるいは市民力を発揮してもらう企業などにがんばってもらうために市役所がどう自己改革する必要があるか。そんな話をもっと書き込まれると、今言ったようなお話が少しみえやすくなるかなというような感じはしますよね。

白川総合政策部参事

今会長からお話ありましたとおり、今の時点でお出ししたペーパーが、特に経営方針のところは文章化されていない状態で、項目だけ広める状態でお示ししているものですから、その辺りのところまでまだ書き込めていないんですけれども、企業の社会貢献の必要性ですとか、それを行政としてもバックアップしていくようなお知らせをすることであったり、何かしらのインセンティブなり表彰なり、そういったことを考えると、そういった形でバックアップしていくこと、それから地域とつなげていくこと、何をおいても、今会長からファンドオフというお話もありましたけれども、そういったものにもやっぱり企業さんに期待しているところ大きいので、ここの部分をきちんと文章化していく中で、項目的には少し拾ってあるんですけれども、市民力でも企業の頭出しだけは名前だけは書いてあるんですけれども、そういったところで厚くしていく中で十分対応していきたいと思っております。

大村虔一会長

いかがですか。

もう少しこう書けというのがありましたら、どうぞご発言いただいて。よろしゅうございますか。

ありがとうございます。

他にございますか。

僕はさっきの新しい言葉を付け加えたというところの、東北だけではなくて世界というのを付けろという話は多少同感する部分もあって、例えば何ページになるかな、東北の記述がありますよね。東北を考えるということではなくて、これから全体的に落ち込む東北の中で、仙台がしっかりその東北を支えていくという姿勢を持ち出すことは、とても大変大事だと思います。また、そうした地域をリードして運営していく仕掛けが、世界の経済の成長点であるアジアの動きに影響を与え、仙台のそろばんもうまく合っていくような夢を描けないものでしょうかね。

すごい勢いで経済が活性化している国がすぐ脇にいるわけです。中国だとかインドだとかその他ベトナムだとか、あの辺はみんなすごい勢いだと思うんですが、そうしたところに対して環境問題などで悩んでいるところに対して、仙台の環境づくりとか、環境づくりと産業を連携させた取組をアピールしていく。何かそんなような仕組みというのはつくれないものですかね。

僕はまちづくり屋なので、もうちょっと産業界の方からの発言がほしいような気がするんです。これは意見要望の類で、適度に処理をしていただいて結構でございます。

意見がない間で申し上げますが、いわゆる工業化がどんどんどんどん進んで、農業とのバランスを失っていく国はいっぱい現れてくると思うんです。そういう中で東北の農とか林とかいうのを中心にした主幹地域を抱え、格好よくつくっていけるまちづくりがあるぞというのは受けると思うんですけれどもね。その辺りのイメージをもう少し書き込んで、何か内に閉じこもらないで、活動の世界を広げる仕掛けはないものだろうか。大滝先生がおられるところで、こういう話をするとうるさしいんだけど、何かそんなような話ができるといいなというふうに思っているんです。

大滝精一委員

いいですか。

大村虔一会長

どうぞ。

大滝精一委員

今の大村先生がおっしゃったこと、私もこれ読んでそういうことを非常に強く感じるんですね。この中でどこまで何を具体的に書くかということについては、先程からお話があるようになかなか、これは実施計画の中に書くべきだという、そういうご意見もあるかもしれないんですけれども。

例えば資料4の13ページのところ、「未来への活力を創る産業の育成・誘致」というところで、具体的に例えばクリエイティブ産業だとか健康福祉、環境などの成長産業、研究開発型産業などを育成・誘致するという書き方になっていて、これはこれでももちろん悪くはないんですけど、一つは今お話があったように、例えば新しい経済成長のセンターになってきつつあるいろいろなアジアの国々とつながって新しいものができ上がってくるとかね。それからやっぱりアジアの国々が持っている様々な困難な課題というものに、きちんと具体的に貢献もできるし、それでそろばんもちゃんと合ってくる、あるいは逆にいうと、例えば留学生の力なんかも含めて仙台の中に新しい活気のようなものをつくり出してくると。そうでないとやっぱり少子高齢化でどんどん人口減少していくという話になってしまうので、何となくやっぱり成熟化はしているけど、大人しくてちょっと沈滞、低迷したような雰囲気にならなくていいかという話。それから農業の類についても、これは高野さんいらっしゃるからあれかもしれませんが、我々には農商工連携なんていうことをやっていて、農商工連携というの、単に国内の産業をまたいで農と商と工が連携するとかという話でなくて、もうちょっとやっぱりアジアに向けて、そういう農商工連携のようなものというのが生きてくるような、そういう取組を進めていくとかね。そういう、やっぱり仙台、東北が持っているいいものをしっかりとある目標に向けてターゲットを定めて、そこでもっと仙台の中に新しい流れをつくり込んでいくというような話が、これは基本計画に書くにはいろいろな限界があるかもしれませんが、是非基本計画、特に実施計画の中にはそういう話を書いてほしいなとい

うのは、読んでいて非常に強く感じるところです。

このままだとね、やっぱり非常に内向きというかクローズドというか、そういう感じが濃厚な計画になっていて、仙台市民はそれでいいかもしれないけれども、本当にそれで外からみていいんですかという、そういう感じを与えかねないようなトーン、特に経済、産業のところはその印象が非常に強いというのが率直な印象です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

私もちょっとその辺を心配したので、ほらを吹いたんですけれども、何か明日がある、そういうことに取り組んでいくんだという姿勢をつくりたいですね。

どうぞ。

大槻企画調整局次長

仙台市におきましては、どうしてもものづくり系というのが、まだ余り他都市に比べて弱い部分があって、特に環境系ものづくりについては、いろいろ企業の他の展示会とかに行っても結構ディーラーが多くて、地元でつくっている部分はまだまだ少ないという部分がありまして、ちょっとその辺に弱さがあるということを私は実感しております。新年度に向けまして、地域のものづくり企業をどういうふうに育成していけるかとか、再生エネルギー系の環境に少し着手してみようとか、そういういづらか芽が出てきているところがございます、その辺を実施計画の中で少し書き込めたらいいなという思いを持っておるんですけれども、それをさらに基本計画の方でどういう芽出しができるかというようなところはちょっと検討してみたいと思っております。

大村虔一会長

よろしく願いしたいと思います。

他にいかがでございましょうか。どうぞ。

鈴木由美委員

9ページにあります「地域で支え合う心豊かな社会づくり」というところですが、実際ここに書き込んであるところの内容として、高齢者それから子育て世代の支援ということが大体中心に書いてあるんですけれども、この中に、やはり実際に社会を動かしているその実際の労働年代の方々の地域での支え合いというものの記述が少し足りないのではないのかなという気がしまして、そこの部分の、やはり働いている環境以外のところでの社会に出ている方々の地域でのつながり、それから地域の支え合うところを、もう少しこの文章の中に書き込んでいただきたいということが要望です。

それから、11ページのところ、3番のところの上から4行目なんですけど、「また、地球環境時代にあって」という語句があるんですけれども、この「地球環境時代にあって」という、この言葉で連想させる部分の記述がちょっと舌足らずなのかなという気がしまして、地球環境の改善とか、それから保全というような形の言葉を補った方が、こ

この部分についてはいいような気がします。
ということで二点です。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。
事務局の方から何かありますか。

梅内総合計画課長

ご意見を反映できるようにしたいと思っております。

支え合いのところではご指摘ありましたように、もちろん高齢者が高齢者同士を支え合うという部分もありますが、当然その若い方を含めて地域で高齢者の方、障害者の方を支え合うということが重要と考えておりますので、そういった内容にしたいと思っておりますが、ちょっと書き方が不十分なのかなと思って、今ご意見を伺って反省をしたところでございます。

ご意見の内容を基に留意しまして修正を進めたいと思います。
ありがとうございました。

大村虔一会長

ありがとうございます。
他にいかがでしょうか。
どうぞ。

宮原育子副会長

質問と意見なんですが、13ページで「人を惹きつけ躍動する仙台の魅力と活力づくり」の(2)、観光に関わる部分なんですが、この中でシンボルゾーンの形成という言葉が出てきていますけれども、このシンボルゾーンというのはどういうものを指して、ないしはどういう意図になるのでしょうか。ちょっと教えていただけますか。

大村虔一会長

事務局いかがでしょうか。シンボルゾーン。

梅内総合計画課長

南北線、東西線の沿線につきましては、重点政策の3番のところで都市軸と位置づけて、中枢都市機能などの高度化を図るということを考えているところでございます。

例えば東西線でいきますと、国際センター駅周辺でただ今青葉山公園の整備あるいは仙商跡地の有効活用といったような課題がございます。この地区につきましては国際学術交流ゾーンということで位置づけをしておりますので、その部分、仙台を代表できるようなそういった学術交流のシンボルゾーンとして整備してまいりたいと思っております。

また、南北線沿線ということで行きますと、長町地区にスポーツアリーナ等の整備ということで今方向性が出てございますので、そういった部分の整備、あるいは北部でございませけれども、青年文化センターあるいはイズミティといったような沿線での文化活動の拠点もございませので、そういったところの活用を意図してシンボルゾーンと記載しているものでございませ。

宮原育子副会長

そうしますと、複数あるイメージということですか。

山内企画調整局長

ちょっといろいろ重点の中身の精査あるいは分野別計画の詰めの中で、言葉足らずも確かにございまして、現段階でイメージしているのは、先程課長が冒頭でお話した、国際センター駅周辺について、この前新聞報道もございましたけれども、周辺開発、この辺をやはり杜の都、そして、心のふるさとの杜という位置づけもある、あそこを新しいシンボルゾーンという意味合いで整備するということを念頭に考えております。

ただ、その辺の個別具体の表現をどうするかについては、さらに分野別計画の具体の表現も含めて、再度ご議論をいただきたいと思っております。

宮原育子副会長

分かりました。

後、全体的に交流の中心をある程度フォーカスするのはいいことだと思うんですが、例えば一方で秋保とか作並の温泉の大切な資源だということの記述、仙台の全体の集客交流に関する記述がちょっと薄まっているような気もするので、そこら辺にも目がいくような形にしていただければいいのかなと思いました。

後、やはり先程西大立目委員もおっしゃっていたんですが、市民力の発揮の中でこういう交流に関わる場所でも、市民の方たちがいろいろな方をお出迎えしてそして交流を図る、ないしはその中から新しいものをつくり出していくということ、多分これ仙台市民の得意技になりつつあるような気がするんですけども、そういう部分もこの活力づくりの中でふれていただけるとうれしいなと思いました。

以上です。

大村虔一会長

よろしいですか。

他にいかがでございませか。

どうぞ。

大滝精一委員

これは今に始まったことではないと思ひませけれども、7ページのところに「学都・仙台の資源を多面的に生かすまちづくり」という話があつて、そのこと自体は私も賛成

なんですけれども、ただ、ここに書かれていること自体を次の10年の間にもっとダイナミックに進める必要があるのではないかということを、非常に強く感じているんですね。

例えば、先程から市民力とか何とかという話がいっぱい出てくるんですけれども、大学が力を合わせて学生に市民力を付けていくということを一体仙台の中でどのぐらいやれているかということを見ると、私はまだ今の段階では非常に形式的な、例えば単位を互換するとか、コンソーシアムを形だけつくってネットワークと呼んでいるという話にとどまっていて、実際本当にその複数の大学が力を合わせて学生を育てていくとか、それからもっと現在の深刻な状況で言うと、学生が就職できないわけですね。現実にもそういうすごく深刻な事態になっているにも関わらずなかなか手が打てなくて、各大学の就職だけががんばってますみたいな話ばかりしかできないという状況の中で、何ができるかということが問われているのではないかと思います。そういう意味で言うと、例えば、いい例かどうか分からないけど京都の大学のコンソーシアムみたいに、もっとしっかりとした拠点をつくって、その拠点の中で具体的に大学の手を合わせてやっていくというようなことをやっていくとかね。

さっき国際センターの周辺のところだという話があって、これは国際センターの周辺のところで拠点をつくっていきますという、どうしても東北大学の話になっちゃうわけですけどね。そういうものではなくて、大学間で交流して何かがやれるような拠点を例えば国際センター周辺につくって、東西線を利用してそのネットワークを強化していくとかね。何かそういうような、これはちょっと具体的な話になっちゃいますけど、より具体的なターゲットでもって、もっとダイナミックに大学間のいろいろな連携とか、それからとりわけ重要なのは市民力と学生の人づくりといったようなところ、もっと若い人材を強力にサポートすることによって、そういう若い人材がどんどんどんどん次の世代を担っていくことができるような人づくりを大学間協力で進めていくとかね。何かその辺のところにもっと踏み込むようなことをやらないと、非常に大人しい大学間交流やります、協定やってますみたいな話では、ちょっとさみしいなという感じを受けるんですね。

その書きぶりはなかなか難しいと思いますけれども、私はやっぱり一つの目標は京都のようなスタイル、そういうようなもっともっと踏み込んだ学都のありようみたいなものを描けていければいいかなと思うし、そのために大学の中にいる人たちをもっと奮起するというか、そういうことも必要かなと思っているんですけどね。

大村虔一会長

ありがとうございます。

事務局いかがですか。

白川総合政策部参事

拠点という意味で京都プラザのような駅前のビルをという話になると、またちょっと大変なところもあるんですけれども、先生が今おっしゃってくださったとおり、人づくりをもっと連携してとか、それが本当に単位互換だけではなくて学生の個別の大学では

本当に少しずつ始まっているいい活動ってたくさんありますので、そういうものをいかにつなげていくとかそれを認め合っていくとか、そういう仕組みづくりについては是非提案していきたいと思っていますし、理想を言えば本当に京都コンソのように億を超えるお金を大学から集めて、それを原資にしていろいろな活動をどんどんつなげていくという、そういったことまで発展できればいいなという思いはあるんですけども、10年でどの辺りのところまでかというのは別にしても、そこに向けてという思いは同じですので、もうちょっと書き込んでいきたいと思います。

大村虔一会長

是非お願いしたいですね。

我々は学都って言っているんだけど、学生が減っていく中でどれだけ仙台が魅力を持って学生をひきつけ得るか。これはとても重要なテーマで、それはそれぞれの大学にだけは任せられない。大学が連携しなければいけない。それにはやっぱり学都という旗を掲げている仙台市がやるべきことをやる。京都コンソーシアムの話をするとお金の話になって、それはちょっと今時京都ができたときとは時期が違うよという話にどうしてもなってしまうけど、でも、いろいろな力を駆使して何かそれをできるかもしれない、あるいはできるという方向に持っていく必要があるのではないか。仙台には今の状況だと空いている床がいっぱいあるんだよね。駅前辺りに空いている床がいっぱいあり、本当に使っていくことがとても大切なと思いますね。

同時に学生をもうちょっと市民にする。本当に学生が市民になるために何がいるかを考える必要がある。学生は今年度の計画、プレゼンテーションや何かのときにいろいろ来てくだされていろいろな交流ができてきているけれども、本当にここが自分の何年間で住む都市だと思って市民として活動するような仕掛けが欲しい。できれば学んだことをベースに自分たちで起業するとか、そんな雰囲気何かつくれないかとかと思うし、それを支えるような部分が民間の企業などの力でつくれないか。

さっきからほら吹き調になっていますが、理由はもうちょっとこう面白くしたい、面白くというか夢を持ち込みたいというような気持ちがあって、事務局には迷惑をかけますが前向きに取り組んでほしいなと思っております。

小野田泰明委員

よろしいですか。

大村虔一会長

どうぞ。

小野田泰明委員

先生方の特にアジアの話は全く同感です。

それでちょっと啓発されて、ずっと読み込んでいたのですけれども、最初から。

基本構想の1「仙台の未来へ」というところで、非常に格調高くまとめられていて私

も深く同感するところですが、ちょっとシックというか、非常にシンパシーを感じているということを最初にお答えしながらも、でも「量」から「質」へというのは1980年代後半から90年代にかなり言われたキーワードで、それよりも今大村先生や大滝先生がおっしゃられたように、21世紀は国家の枠が柔らかくなって都市間競争というか、都市間協働と言ってもいいですけども、都市と都市がお互いにダイレクトにつながっていく世界に、環境になります。そういう世界の中で何ができるのか。世界の中にいながら自分たちの身の回りのことをきっちりどうやれるのか。グローバルとよく言われますけれども、やっぱりそういうトーンが最初にあった方が、「量」から「質」というよりも都市間協働の中で仙台はこういうスタンスでまいます。東京を経由しなくてもきっちりとプレゼンスを果たすようなすてきなまちになりますということをうたわれたらいかがでしょうか。支倉常長とか政宗とか、これは言い古されてはいますけれども、そういう人たちもいたわけで、東北大学とかいろいろな大学があって、外国の文化とか好奇心に満ちたそういう場所ですから。だから、先生方がおっしゃったように、東北の豊かな資源と世界の知恵を結びつける拠点であり、そこから新しいことを積極的にやっていきます、そして、21世紀にこのままいくとなかなか厳しい東北を盛り立てながら、しっかりプレゼンスをしていきます、ということを多分うたわれた方がよく、そうしないと10年先にならないような気はします。そのコンセプトについての転換というのが提案の1です。

提案の2は、重視すべき視点という5ページ目です。これもよくできていて、 からまでは要するに四つの都市像に対応していて、 が市民力、 が地域のきめ細かな、 が市役所という話です。 から はいいとしても、 から の付け方なのですが、はもう少しきちんとして書くのであれば書いた方がいいと思います。それをどう充実させるかということについては、市民力でがんばりますみたいな記述なので、後で言いますが、それは少ししっかり書くべきだと。また、 から までというのが、それぞれの活動の中で市民力というのが関わってくるわけですね。 の学びの楽しみの創造活動への展開というのは自分で考えてチャレンジする市民力だし、 の地域における多層的な支え合いというのは地域に根ざした腰のすわった市民力ということだし、 の環境と調和した質の高い暮らしの実現というのは世界のことを考えるやさしい市民力だし、 の都市の新しい魅力・活力の創出というのはアクティブに活動する、チャレンジする市民力だし、市民力の四つのファセットが表れているだけです。だから、市民力を書くときにはその四つのファセットをセットで接面、面というのは結晶の面ということですけど、そういうものを面としながら、では、そういう市民力をどうつくっていきますかという書きの方が良いと感じるんです。 は地域の問題があるから、どうしても書かなければいけないというのは分かりますけれども、既に から でかなり言われている、というか既に網羅されていることなので、あえて項目を挙げるというのはなかなか難しいかなと思いました。むしろその 市役所という中に、それを推進する組織内の自己変革みたいな形で踏み込んでもいいのかなと思いました。それが2点目です。

3点目は、次の第2章の「重点的な取り組み」の第1の1「学びを多彩な活力につなげる都市づくり」です。(1)、(2)、(3)とあって、(1)がミュージアム都市

で、(2)が学都で、(3)が子供たちの話が書かれているのですが、これは難しいかもしれませんが、ミュージアム都市というものを切り離してしまうと、先程もどなたかおっしゃっていましたが、お稽古ごとというか道楽のミュージアムみたいに聞こえてきて、市長が言っているミュージアム都市というのは何かデコレーション、飾りみたいな、そういうちょっとうがった見方もされてしまうのではないかと思います。そうではなくて、恐らく(1)はそれはそれでいいんですけども、(2)の学都にしても何か大学が、ミュージアム化という言い方はよくないんでしょうけれども、開かれて地域の教育資源として変わっていくとか、(3)の学校についても普通の学校というのではなくて、わくわくするような、驚きと楽しみと出会いに満ちたような学校にしていけますというところで、全体にミュージアムというものが関わってきて、生涯学習のミュージアムか何か学都のミュージアムと連携した学都との展開、子供たちの学びの中でのミュージアム化みたいな、何かミュージアム構想みたいな、それぞれのこととミュージアムを掛け合わせて書くというアイデアもあるのではないかと、それでそれが市民力のエンジンをつくっていくんです。都市の個性を理解して、より深い好奇心に満ちあふれた、共感力も持った、トレランスも持ったような人たちが、このミュージアム構想を展開することでどんどん育っていくんです。今までの習い事ではなくて、もう少し腰がすわった市民力のエンジンをつくる作業なんですよということをきちんと書いた方がいいと思いました。

その次の2番目はいいんですけども、3番目の環境の(1)低炭素のところがすごい短いんですけど、ここに新しい技術とか、先端技術と連動した仙台的ライフスタイルの展開みたいのところまで書いてほしいです。それは、僕はたまたま東北大学だから言っているわけではないんですけども、東北大学という工学系に強くて、この技術をいっぱい持っているリソースがあるわけです。そうすると、やっぱり低炭素というのはまさに、官学連携か官民学か分からないけど、そういうもののネタとしても最高だと思うんです。だから、そういうものはちょっと色気を出して書いた方がいいのではないかなと思います。

次の「都市像の実現に向けた4つの経営方針」というところについてですが、これが第1章の看板を推進するエンジンになるんです。エンジンになるんですが、「1 未来を創る市民力の拡大と新しい市民協働の推進」というところが、なかなか分かりにくいというか、繰り返しが多くて分かりにくいです。その分かりにくい源泉はどこにあるかというと、市民協働と市民力がなんかこんぜん一体となっていて、書き手の方はすごく賢い方できちんと市民力を最初に名詞として使っていて、その次にそれがどうやって動きますかというところで動詞的に市民協働というのが使われて、分かるよううまく分けてはいるんですが、従来の市民協働と言わずに市民力とあえて言っているところがやっぱりみそで、それを最初にもう一回ここできっちりリフレインするべきだと思います。

私の理解の中の市民力を醸成するとか市民力というのは、まず主体となることができる、自律的に自分の問題だということで、人任せ、様子見、受動的ではなくて、口数は少ないんだけどりんとして主体となるような市民だと思うんです。その主体となることができる市民を応援するために行政は任せる、見守るということをきちんとします。

それから、さっき大滝先生が非常に厳しくというか、鋭く突っ込んでおられましたけれども、全体的に内向きな気がするので、そうではなくて市民力というのは、周りのことはきっちりやるけど、新しい試みをいろいろやってみたりとか、地域のこといろいろ変えてみたり、チャレンジする市民力なんです。行政はチャレンジする市民力を後押しします。

その二つは結構大きくて、3番目はいわゆる市民力というのは周りのことに対して非常にやさしい市民力です。お年寄りとか子供とか地域のことについて、きっちり気配りができるそういう市民力。4番目と言っていいのかどうか分からないけれども、グローバルな視野が広いといいますが、未来に向けたり世界に向けたりいろいろなことを考えたりとかというような賢いというか思慮深い市民力。そういう思慮深い市民力を支援するために教育の機会を十分に用意して、ミュージアムシティを展開するのもそのためです。その四つが非常に有機的に展開していくダイナミックな存在こそが我々の市民力だと出すというようなことを最初に書かれてから次にいった方がいいのではないかなと思っています。

「1 未来を創る市民力の拡大と新しい市民協働の推進」についてはそういうふうにしてはどうでしょう。

その次の16ページ「2 地域特性に応じたきめ細かな地域づくりの推進」については、さっきちょっとなかなか位置づけにくいということをお話しましたけれども、結局これは市民協働をどう地域で展開するかということを行っているわけで、それはもう端的に、先程何人かの委員の先生方がおっしゃっていましたが、プラットフォームをきっちりつくってあげる。それは市民フォーラムでも出ましたが、市民センターの位置づけとか学校の位置づけとか、そういったところを市民力のプラットフォームとして位置づけます。それは拠点をきちんとつくることが大事で、それは別に新しい建物をつくるのかそういうのではなくて、ファシリティマネジメントと絡めてしっかりと拠点化していく。それは何を指すのかというと、先程針生委員がおっしゃったように企業人とか、高齢者とか若者とか、そういったまだパワーになっていない潜在的なパワーを拠点化することで引き上げ、かつ、つなげていく。そういうことが恐らく可能になるはずだというふうに書かれるとより具体的で、ああこういうことやろうとしているんだというのが伝わると思います。

その次、「3 地方時代を先導する市役所の自己変革」というところですが、これはやっぱり財政を再建しなければいけないから財政再建が前に出ていますけど、財政再建をしますというだけではなかなか難しい部分がありまして、それはきちんと書いて、財政状況が厳しいんですということを市民に知ってもらわないといけないので、書くべきだと思っていますけど、実際は予算の査定が厳しくなるだけで、僕も市の仕事をたくさんやらせていただいているので分かるのですが、予算を一律削るんです。でもやっぱりでこぼこがあって、シナジーが出るためにはこれを残してこれを削るとかというのがあるんですけれども、やっぱり担当課はよく分かっているけど財政課はあくまで間接的にしか分からないから、余り財政課を勢いづかせると結局お金が中途半端に削られて、パフォーマンスも中途半端になってしまうということもあるでしょうから、やっぱりそこ

でお互いの各部局が持っている似たような施策を束ねてパフォーマンスを出していく、要するに横断ということです。横断を横串をきっちりやっていき、その横串は庁内だけではなくて、先程の官学とか、大滝先生がおっしゃったような大学と一緒にやるとすごく面白いことが起こる官民とか、そういったスケールでの横断をきちんとやります、横串をきちんとやります。

それともう一つ縦串についても、これも前に申し上げたと思いますけれども、縦串もお願いしたいです。縦串とは何かというと、要するにパイロットプロジェクトをやって、先導的に横でくっついたものをパイロットプロジェクトでやって、それをフィードバックします。時間軸の中での縦軸、部局間若しくは官民の横断、その二つをやることで、財政再建もやりますが自己改革していきます。この横串というのと縦串というのは実はくっついていまして、横串というのは、年がら年中ずっと横串をやっていたのでは各部局がそれぞれある意味が全くないし、行政というのはやっぱりそれぞれの法律に基づいた施策をやるために、ぱっと効率よく部局が横に並んでいるわけなので、それを全く否定してはいけなくて、ただプロジェクトごとにはそれがくっついてもいいはずで、プロジェクトをどうやって抽出するかとか、プロジェクトをどうやってフィードバックするかと、これはもう既に縦串の議論なんです。縦と横をうまく展開していった自己改革を図っていきます。その中には恐らくちょっとというものが多から余り言いたくないけれども、PPP、パブリックプライベートパートナーシップみたいなお金を介して官民と横断するみたいな、リスクヘッジが非常に大変なんですけれども、そういうことも含めてダイナミックに展開していく仙台市役所になりますというふうに、何を自己改革するのも少し踏み込んでコメントされたいのではないかと思います。

長くなりましたけれども、割と整理だってしゃべったつもりですので、かなり取り入れていただけるとうれしいですが、どうでしょうか。

大村虔一会長

ありがとうございます。事務局から何かありますか。

山内企画調整局長

非常に広範なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

作業の流れで、ちょっと何て言いますか、次回24日に審議会を予定しておりまして、基本的には現在不足している部分、今の経営方針の体言止めしている部分の具体の記述とか、基本構想の不足している部分とか、いろいろ加筆の準備を並行してそれを進めておりまして、加えて分野別計画についても、いろいろ予算編成あるいは実施計画あるいは各分野の個別計画のまとまりを踏まえて、その作業を進めております。加えて今日いただいたご意見を反映させてということで、最初に何か弁解しているような感じでございますが、可能な限りの範囲内で反映ができればということをもまずはお言葉にさせていただきます。

後ろの方から説明をさせていただきます。自己変革の点については、常々小野田先生からご意見いただいているテーマでございます。その辺を市役所の自己変革で拾うのか

他のテーマで拾うのかという部分が、施策全体のバランスもありまして、自己変革だけではなくて他のところでも拾っているつもりでございまして、その辺は具体の部分を見ていただいて、またご意見をいただければと思います。

地域のところの市民力のプラットフォーム、それでいろいろな市民力を高めていくという部分も、市民力と地域の両面でいろいろと検討をしているところでございます。

また、市民力のところで、市民協働と市民力が混在しているとか流れのつくり方、この辺については大変参考になる点でございますので、その辺は可能な点について反映させてできればと思っております。

後は、重点政策の「3 環境と調和した持続可能な都市づくり」で、これは中間案での都市デザインということで、グランドデザインに特化させたまとめにしておりまして、やはりそういった中では環境が全体的に不足しているという部分があって、冒頭にその低炭素都市づくりを盛り込み、加えて都市デザインの中にそれぞれのテーマの中で自然と共生する都市づくりとか、いろいろな要素は盛り込んだつもりでございます。ただ、それにしてもまだまだ少ないというのが、庁内的にもそういう意見もございますので、その辺もちょっと今後調整したいと思えます。

次に、学びの関係でございます。この辺もご指摘ごもっともなところでございます。ただそれを実際ご指摘いただいた流れでどこまで整理できるかと。それぞれのミュージアム化、例えばその推進をする、そういった趣旨を可能な限り盛り込みたいとは思いますが、どこまで反映できるかというのは分かりませんが。

重視すべき視点につきましては、これ庁内的にもいろいろな意見がある中での過渡的な整理でございまして、まだまだ過不足があるというのは私どもも認識しております。その辺について今日いただいたご意見も踏まえてさらに精査を進めたいと思えます。

後、最後に冒頭の基本構想の導入部でございます。ここについてはご指摘は全く同感するところが多いんですけども、ただ、その書きぶりとして「量」から「質」の古い話ではないかというのは十分認識しておりますけれども、その「質」の向上を重視して心豊かな生活を志向する社会というのが、今回の成熟社会という位置づけとして広めたいということもございまして、そういう入り方をしたいなということと、後は、国際的な部分でその辺を重視し過ぎると、市民の感覚としては、いつの時代の市民アンケートでも同様なんですけれども、その国際化というテーマについては、やはりニーズとしては非常に低い、もっと身近な部分での要望がいろいろ多いということもございまして、ご指摘はごもっともなんですけど、その流れとしてはこういった流れで、そういった中でもそのグローバルとか都市間協働とか、そういった視点をいくらか盛り込んだ形でいうところで、ご理解をいただければと考えてございます。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

1時間45分か、50分くらい過ぎたわけですが、まだご発言をいただいていない方がおられますので、こちらの方から指名をしてご意見をいただきたいと思いますと思いますが、既にこ

発言なされた方でももっと言いたい方は、言っていただいて結構でございます。

とりあえず、ご発言がなかった方を阿部委員から順番に、まだなかった人でこれは是非言っておきたいということをお願ひしたいと思うんですけど。よろしくお願ひいたします。

阿部一彦委員

高齢者や障害者についての記述がいろいろありまして、とても大事なことだと思います。この中で、今のと関係ないんですけども、全体の基本目標というのは何かこう言葉としてつくっていくのか。分かりやすく市民に伝える基本目標っていうのはどういうふうになるのかなと思いながら、この市民力というものについてお話を伺っていくと、それぞれ働いて、仕事をして、また地域でも関わるという、そういう仕組みっていうことが分かる。多分そういうことなんだろうと思うんですけども、それがどう伝わってくるのか。お仕事をしながら地域のためにまた関わるということがあってこれが充実していく、そのために大学とか様々な学びということで実現していくんだと思いますけれども、そういうことをどう分かりやすい言葉で基本目標みたいなものをつくって伝えるのかどうか。つくるのかどうかも分からないで言っているんですけども、その中に障害がある人も高齢の人もやっぱり支え合いの一つの担い手であるということを明確にしてほしいと思いました。

大村虔一会長

ありがとうございます。

それでは、阿部初子委員お願ひいたします。

阿部初子委員

私も子供の保育のところでみていたんですけども、育ち合うというか、そのところが本当に市民力、いろいろな人たちと地域の中で育ち合う、様々に関わる中で育ち合うという、そういう表現的なものは出ないものかということと。

後、今の皆さんの意見で、ああそうだなと思っているんですけど、その市民力を発揮する拠点というものを、やっぱりきちんと明確化していくということが、文章では書いているんですけども、一つ一つの市民力を発揮する場所場所での拠点というのが、このところこそ発揮できるんだよみたいなものがきっちり必要なのかなというふうに思いましたし、全体的な大きな仙台市という大きな入れものというか、活動できるというか、みんなの市民力が発揮できるというか、原っぱというか、いろいろなところからきてエネルギーを出すというか、うまく表現できないけど、原っぱ的な都会の魅力もあるんですけども、そういったところのくくりみたいな何か、うまく言えないんですけど、そういうところにお年寄りも子供も働く人も発揮できる拠点を持って行って、そして、全体的な構想が理解できるようなそういったものが、文章的にどういうふうにしたらいいのかは私も何か、いろいろな何か、んーっと思うんですけども、そんなところざっくり今考えていて、今どういうふうに表示したらいいのかなって整理していたところ

です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

事務局の方、よろしいですね。ご要望ということで。

次は、大草委員まだご発言なかった。よろしくお願いします。

大草芳江委員

自分も、どういうふうに自分の感じることを表現しようかなって、ずっともやもやしていたんですけど。10年後どういう社会になっているんだろうって、最近ちょっとすごくこういった機会もあって考えるようになってきたんですね。

ここ数箇月とか1年だけで、例えば日本の世界からの立ち位置だったり、そういうものの変化を感じている中で、この中間案も先月見て読んだ印象と今月見た印象とまた違うんですよ。それはただ変わっただけではなくて、多分自分たちも国際的な立ち位置も含めて変わっているからそう私も感じるのかなと。

となれば、その10年後、同じものを見てもすごく違うふうに感じられるのではないかなと私は思って、そういった中で見たときに、例えば仙台という都市はどうなって生きていくのかなとか、そういったところを見たときに、今都市像って四つ出ているけれども、例えば仮に何か生きていける前提みたいなものがすごく大きく変わったとすれば、上の三つ、学びの都とか共生の都とか潤いの都というのもそもそも成立しなくなるのではないかなとか、何かそういった不安を最近強く覚えるようになったんですね。

そうなったときに、先程の国際的なもの、アジアとかそういったものと何か仙台の魅力を結びつけてとか、そんな議論があったんですけど、やっぱり何かこう、何て言うんですかね、そもそもどうやって生きていくのか、そういったところがまずあって、何かこういった市民力って話がなければ、何ていうか、ただ単にもう何か生きるのも大変だけど、とりあえず皆で何か生きていこうね、というふうにも読めなくもないっていうんですかね、そうとも読めてしまうような感じがちょっと特にしていて、それに対して何かやっぱり10年がかりの計画なので、そういったものにも何か先程夢って言葉もあったんですけども、やっぱり現実と夢っていうものの、何かセットで何かあるような計画だとうれしいなというのも、ちょっと今更ながらですけども、何か最近すごく感じる場所です。何か意見のような、感想のようなことですけども。

大村虔一会長

ありがとうございました。

それでは、小松委員まだご発言なかったでしょうか。

小松洋吉委員

あの、特にありません。逆に勉強になりました、ありがとうございました。

大村虔一会長

恐れ入ります。

それではこちらにまいりまして、菅井委員いかがでございましょうか。

菅井邦明委員

事務局がんばってくださいと。

大村虔一会長

エールを贈って。

菅井邦明委員

エールを贈って今日は終わります。

大村虔一会長

ありがとうございます。

それでは、高野委員いかがでございましょうか。

高野秀策委員

仙台という100万都市は、東の方は太平洋があって平場の農村地帯、田園があって、北西部は山岳地帯あるいは中山間の農業地帯と、こういうことになっておりまして、程よいこの都仙台が、そういう農村なり森林なりそういうのに守られているんだらうと思います。ですから、そういうことからすると、農業といえますか農林業、そういったことの記載が若干少ないのではないかと。ですから、土地利用なんかにも先程大滝先生もいろいろお話されていましたが、その農業が持つ多面的機能、いわゆる農産物を生産するだけではなくて、洪水を守ったり環境を守ったりそういう働きが100万都市をしっかり支えているという点を、是非私は入れていただきたいなというのが一つです。

後もう一つは、今、農商工連携と言われていますが、仙台は、自給率からいうと100万の市民の皆さんを支えるほどの生産力はないんですけれども、米はありますが他のものがまだまだ足りない。そういう自給力を高めたり、あるいは農産物はその米とか野菜単品だけではなくて、それを付加価値を付けて加工する農商工連携、今6次産業なんて言われていますけれども、そういうのをしっかりとつくり上げていくような、そういったことを是非私はお願いしたいなと。

この二点を感じましたので、発言をさせていただきました。

大村虔一会長

ありがとうございます。

その次は、西澤委員いかがでしょうか。

西澤啓文委員

僕も特にはございませんが、一点だけちょっと。これ、ここに合うか分かりませんけれども、ここで地方分権の話がいろいろ出ているわけですが、その中で仙台というまちが、仙台だけで自立できるようなイメージというのがこの構想の中で、僕はちょっと感じとれなかったものですから、もうちょっと仙台はこうやっていけば仙台だけでやっていけるというような、その誇りをもっとこう持って、皆がそうだと思うようなことが記載があるとちょっとどうなのかな。ちょっと漠然としていますけど、そんなことがあって初めて仙台の基本構想であり基本計画なんじゃないかとちょっとイメージを持ったものですから、これは意見としてお話をさせていただきたいと思います。

大村虔一会長

ありがとうございました。

庭野委員いかがでございましょうか。

庭野賀津子委員

文言のこととか細かくて申しわけないんですけども、まず一つは2ページ目のところで、都市像のところの一つ目のところに市民力が広がるというふうに言っているわけですが、ここに挙げている都市像四点とも全て市民力に関わる部分でして、でも、どこかに市民力というキーワードを入れないといけないのかということで、あえて入れられたのかなとちょっと印象があるんです。一つ目のところに市民力が広がるとあるのが、何かちょっと取って付けたような印象があって、その後に続かないような気がしますので、あえて無理にここに入れなくてもいいのかなという印象を持ちました。

それから、7ページにいきますけれども、ミュージアム都市構想というのは、ただ今市長さんも言われていることですので、ある程度何をもってミュージアム都市と言うのかということの共通理解が図られているのかなと思うんですけども、やはりここにもいろいろ具体的には書かれてあるわけですが、もう少し分かりやすく、ここでいうミュージアム都市というのは仙台が初めて言ったことではなく、大阪などでも既に使われている言葉ですけども、仙台で言うミュージアム都市ってどういうことなのかということを、もうちょっと分かりやすく表現していただく。例えば既にあるいくつかの博物館を有機的に結び付けていくことであるとか、まちの中にある様々な自然景観も全て含めてミュージアムであるとか、そこで子供たちをどんどん学ばせていきたいとか、そういったことがもう少し分かりやすいといいのかなと思いました。

それから、9ページなんですけれども、子育て応援社会づくり、やはり子育て支援というのをとても重要なテーマであるわけですが、この中に例えば、病児・病後児といった具体的な言葉も出てきておりますので、後ここにできれば障害児の支援という言葉もちょっとふれていただけるとありがたいかなと。やはり障害児を抱える親御さんたちのご苦労というのかなり目の当たりにしてきておりますし、特に放課後のケアなども、保育所はいいんだけど学校に上がってから困るというような、本当に困りますので、何かちょっと一言、障害児の支援というのをどこかに入れていただけるとうれ

しいかなと思いました。

後、10ページの、これも言葉の話で申しわけないのですが、10ページ上の「児童クラブ」という言葉ですが、これは仙台では「児童クラブ」という言葉を使っているんですけども、一般的には「学童保育」ですので、ここでは一般的に通用する言葉を使われた方がよろしいのかなと思いますけれども。

以上です。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。

それでは、間庭委員がまだご発言ないと思いますが。

間庭洋委員

審議会の意見ですとか、市民の皆さんの意見をよくこういうふうにしてまとめたなど感心しております。ゆえにどうしても、いろいろなものを柱とか粘土を付けてしまうと、どうしても丸みを帯びたような柱になってしまうこともみられることもありますので、さっき大滝先生と小野田先生がおっしゃったような大胆なものを盛り込んでいくということで、良い示唆をいただいたなと傍聴していたんです。

それから、ちょっと一つ気に掛かりましたのは、改めて1ページの2番のところに市民力の言葉が出てきていたのを、このこと自体は中に「百万市民の集合体」とか「市民一人ひとり」とか「さまざまな主体が」ということできちんと書いてはあるんですが、このことで市民の方々が俺のことを言っているんだなということがちょっと分かりにくいかもしれないなというのが。例えば15ページの第2の(2)の、に例が書いてあるんですね。子供や若者や企業や大学、シニア世代と書いてある。よく構成は分かるんですが、あっ、市民力って俺が担い手なんだということが、散々読んできてここで分かるよりは、もうちょっと前の方で「さまざまな主体」というのが俺のことなんだと、私のことなんだってもう少しイメージするようにして、ずっと読んでいった方が市民力というものの受け止めをしっかりとした上で皆が読めるかなという感じがいたしましたので、ちょっと気になった点を申し上げました。

大村虔一会長

どうも貴重なご指摘ありがとうございました。

柳生委員がまだ残っていらっしゃいます。

柳生聡子委員

初見で読むのに時間がかかってしまって、中間案のものと比較しながらどこが変わったのかなということで、比較しながら読んでみました。

タイトルが変わった部分なんかはより良くなっていると思いましたし、経営方針の中で市民力が1項目目にくればいいのになと思っていたら、そのとおりになっていてすごくよかったなと思うことが多かったです。

皆さんの意見をお聞きしていて、すごく共感したことが二つございました。

一つは2ページ目の、仙台の都市像のサブタイトルをちょっと長めに付けてとおっしゃる点なんですけれども、やっぱり多くの方の意見を取り込もうとするのはすごく大事ですし、いいなと思ったんですが、ちょっと分かりにくくなってしまうので、タイトルにするよりも、説明文として書いておいて、やっぱり言葉は取捨選択して、選び抜いたものをぽんと一つ置いた方が入っていきやすいのかなと思いました。

二点目は、全体的に内向きという先生方のご意見があって、ああそうだなと私もすごく思ったので、ちょっと大口をたたくぐらいの、大きなことを言っても何か意気込みとして市民が受け止めてくれるのではないかなと思うので、夢のある感じでダイナミックな部分が書かれるといいのかなと思いました。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

これで発言がない方はいなくなったと思うんですが、市が準備していた予定によると9時近くまでやって大丈夫だということになっているので、どうぞ言い足りない方、ご発言いただいても結構なんでございます。いかがでしょうか。

どうぞ。

岡本あき子委員

一点、検討していただきたいんですが、障害者などの障害という文字なんですけれども、最近「害」を平仮名で書いてほしいという要望が、全体の総意ではないかもしれないんですけれども、ありまして、結構障害の「害」というのをあえて平仮名で書いているものも増えておりますので、それが皆さんの、あるいは御当局も市長も含めてもし可能であれば、是非検討していただきたいと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。

ご検討いただきたいと思います、委員会で審議する必要はないですね。

山内企画調整局長

ちゃんとその辺は、個別の施策分野での見解もありまして、市長の意見を聞いた上でご検討させていただきます。

岡本あき子委員

是非一度検討していただけると助かります。

大村虔一会長

他にいかがでございましょうか。

なければ、僕、先程高野委員のご意見に大賛成で一言付け加えさせていただきます。仙台が環境都市というのは、母体になっているのは杜の都という言葉から発想されていて、広瀬川と緑という感じです。でも元々伊達さんがつくったときには、いわゆる丘陵部の緑があってその緑を守って、そして、その鹿狩りができるくらい動物がいっぱい森もつくろうとしたわけです。いろいろな用材となる苗を全国から集めて植えて、里山の緑を大きくした。一方では、沖積低地に一所懸命に堀をつくって。多分伊達藩の石高が増えたのはそこが農業で生産が上がるようにしたからです。六郷堀とか七郷堀をつくったわけです。そういうようなものが最近どんどん埋め立てられていくプロセスを見ると、環境を守るためにとても大切なのではないかなと思います。100万都市を守ろうとするには、中心部の杜の都だけではなくて、視点をこの一回りマントエリアというか、都心部の一回り外ぐらまで見て、そこをしっかりと整備し、ただ維持するのではなくて、農業も維持できることによって、あの水田が保たれてほしいものです。若い人に聞くと、このエリアに若い人いないと言うんだけど、そんなことなく若い人が住めるような状況にするぐらいの話を盛り込めたらいいと思います。またほら吹きモードで大変申しわけないんですが。そうすると杜の都のイメージが、随分大きくなってくる。生物多様性とかいろいろな言葉が今風に言われているけれど、それは400年ぐらい前から一所懸命にやってきたんだぞというような感じで、それを継続しさらに発展させるんだというぐらいのほらは吹けないでしょうか。

計画としてはその方がずっと夢があるし、面白みが出てくるんじゃないかと思うので、先程の高野委員のご意見、大変ありがとうございました。

西大立目祥子委員

先生、今の話に付け加えたいんですけど。

私も高野委員のご意見に本当にうなずくところが大きくて、それにプラスして是非歴史・文化というのももうちょっと強調していただきたいなと。やっぱり城下町として誕生して、まちを支えた周辺の自然というものがあつたので、その二つのその関係性というのは都市が途絶えになったとしても、やっぱり保たれていくべきものだと思うんですね。

歴史と言うと、一般的には後ろ向きだとか内向きだと言われがちですけども、決してそうではなくて、やっぱり仙台の都市の魅力の骨格を成すのは時間の積み重ねだと思うので、杜とまちとの歴史性を両方捉えるということがすごく大切ではないかと思います。

とてもよく直していただいたんですけども、その歴史性・文化性ということは前の方からちょっと後退したような印象を持つので、その辺はちょっと戻していただければと思いました。

大村虔一会長

なかなか難しい注文ではありますが。

山内企画調整局長

決して後退させたつもりではございません。部分部分がその作業の過程で入れられていないという、そういう制約の中でのそういう資料になっているものですから、その辺の誤解を招いて申しわけございませんでした。

基本的なスタンスはできるだけ趣旨を踏まえてと思っております。ただ、やはりその未来に夢を描くという観点と、未来に責任を持つという観点と、両面が求められているものですから、基本構想レベルでどこまで書くか、基本計画レベルでどこまで書くか、さらに実施計画レベルでその財政状況も踏まえて具体的に何をやるか、これはやはりそれを担っていく基本の行政としてはその辺の切り分けはしっかりやっていかなければいけないと思っておりますので、今このいろいろ会長を始めご意見をいただいた、もっとほらを吹いて夢をとという部分についてもきちんとどこで書くか対応しつつ、いろいろ切り分けをさせていただいてまとめていきたいと思っております。

よろしくお願いします。

大村虔一会長

ありがとうございます。

ほらと言っているんだけど、僕は半分本気で言っていたわけでありますが、何か計画というのは夢があると皆それを実現しようとして動くというところがありますので、そういう雰囲気は是非盛り込みたいという意味でございます。

他に何かございますか。

どうぞ。

菊池昭一委員

ちょっとだけ事務局の方をフォローすると、恐らく夢を描くということは、非常に財政との兼ね合いも含めて、しつこく財政、財政と言うんですけども、ほらを吹きたいんですけど、議会で質問されたときどうするんだろうという思いが一つあって、ある意味では私だけの立場から言うと、その夢をいっぱい吹くのはいいんですけども、ではこれどうやってやるの、どうやってやるのって、私たちはある意味では突っ込む立場ですよ。双方を考えて恐らく局長は答弁しているんだろうなと思います。

ちょっとだけ当局もフォローしてあげないなと思いました。

大村虔一会長

いやいや、どうもありがとうございました。

菊池昭一委員

言わせていただきました。

大村虔一会長

多分そうだと、私も分かっているんです。それをこう動かすために市民力という得

の知れない言葉が中に入りましたので、それが市民力、それが市民力ってこういうような話もあり得るかなと思っておりまして、申しわけございません。

(3) その他

大村虔一会長

他にいかがでございましょうか。もし大体ご意見がいただけたということであれば、そろそろ終わりにしたいと思いますが、いろいろな角度からいろいろなご意見をいただいたと思います。

3 閉会

大村虔一会長

基本構想、基本計画にしっかり分けないでご意見をいただきましたので、事務局の整理が大変だと思いますけれども、一つどうぞよろしく整理をお願いしたいと思います。

時間が随分限られているということは委員も皆知っていると思いますが、その中でより良いものになるということを期待して、今日は終わりにしたいと思いますよろしくお願いします。

どうも皆さん、今日はありがとうございました。

事務局いいですね、これ全部終わりで。

梅内総合計画課長

ありがとうございました。

次回は24日と期間が短いので、この間いただいたご意見どこまで反映できるかというのがありますが、可能な限りがんばりたいと思います。また、最終案に向けて少し時間をいただきながら検討していくこともありますので、その点ご了解いただければと思います。

本日はどうもありがとうございました。